

R3年11月8日(月)

テーマ：糖尿病患者指導のポイント(応用編)

講師：金本 純子 先生 太成学院大学看護学部在宅看護学科 助教
糖尿病看護認定看護師

場所：看護研修センター

参加者：31名

ねらい：糖尿病患者の病状の進展と合併症予防のために有効な指導について学ぶ。



糖尿病の病態生理から、コロナ禍での糖尿病患者への影響、糖尿病患者の退院支援など様々な視点からの講義があった。



午後は、実際の事例をもとにグループワークでディスカッションが行われ、活発な話し合いがされていた。講師からは、患者との具体的な関わり方を聞くことができた。



講師の明るい雰囲気や元気がもらえるような講義であったので、終了後のアンケートには「私も患者の太陽になりたいです。」と前向きな感想がみられた。

R3年11月15日(月)

テーマ：周産期のメンタルヘルスケア

～子育て家族のこころを支える～

講師：午前 向井 君子 先生 和歌山県立医科大学附属病院 看護副部長

午後 西井 崇之 先生 東京医療保健大学和歌山看護学部 講師

場所：看護研修センター

参加者：10名

ねらい：母子のニーズに合わせ、より個別性のあるメンタルヘルスケアを学び、実践に活かすことができる。

子どもの虐待予防の現状と看護職の役割。子育て世代支援センターの活動や活について学ぶ。



午前は向井講師より、近年の児童虐待や妊産褥婦の自殺の増加など、母子を取り巻く環境やメンタルヘルスの状況について説明があり、子育て期の家族を支援するには、長年実施してきたケアや母親指導についても、対象者に合わせて見直してみる必要があるのではないかとこの講義があった。

午後からは周産期以降のメンタルヘルスケアについて、西井講師より講義があり、途中で席の近い受講者間でのディスカッションも行われた。児童虐待や発達障害支援が必要な親子を理解すること、取り巻く環境やどう支援するかについて学ぶことの多い内容であった。



今必要とされている内容でもあり、少人数の受講者であったが、ディスカッションも活発に行われていた。終了後アンケートからは「対応や声かけを具体的に教えていただきよかった。」との回答があった。

また、今回は地域の保健師の参加もあり、ディスカッションも幅広い内容で行えた。

R3年11月21日(日)

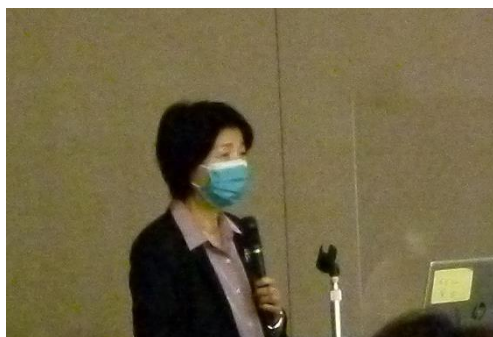
テーマ：現場で即活かせる看護記録の記載の基礎とポイント

講師：岩淵 泰子 先生 東京都看護連盟 幹事長

場所：看護研修センター

参加者：43名

ねらい：記録のリスクを理解し記録の正しい書き方を学ぶことで、病院や自分自身の身を守ることや、患者の状況が見えやすい看護記録を記載する力を身につける。



看護記録の目的と意義などの基本的事項から、倫理綱領を踏まえての看護記録の重要性などの講義があった。

午後からは、SOAPの記載例をもとに席が近い方とディスカッションをしたり、法的証拠にもなるカルテへの記載時の注意事項、インシデントの際の記録の実際などをわかりやすく講義があった。多くの受講者が、資料にボールペンで色を変えて書き込む様子があり、最後まで真剣に講義を受けている姿が印象的な研修となった。



講義終了後の質疑応答では、あちこちから挙手があり、時間内に受けきれないほどの質問があった。普段から試行錯誤しながら看護記録を記載していること、この研修が現場に即した内容であったことが伺えた。

R3年11月29日(月)

テーマ：災害看護フォローアップ研修

講師：黒澤 和子 先生 ホスピタリティーサポート和心 所長

場所：看護研修センター

参加者：22名

ねらい：災害支援ナースの活動や役割を再認識し、今後の活動に活かす。

災害支援ナースのネットワークづくりや相互支援を図る。

特殊災害に対する専門的知識を再確認する。



今回の研修では午前中は災害の専門知識を学び、災害が発生した時にどのような看護が必要か、看護者として何ができるのか、看護の原点や考える看護という視点で講義が行われた。今できることは何か、倫理観と専門的視点を持って臨機応変に考えることが大切であるという支援のあり方を学び、午後からはグループワークで災害支援ナースの活動や役割を再認識し実際の活動場所で実践できるシミュレーション、意思決定ワーク、物品がない中での援助方法などを行った。

災害時看護は普段の実践の延長線上であり、限られた環境、資源の中でどのような工夫をするのか、アイデアを出し状況判断していくこと、人と人の繋がりを大切にすることが重要であると学んだ。

